

平成 28 年 4 月 5 日

各 位

会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エグゼクティブ・マネージャー 橋高 公久
電話番号 03-5572-0233

減損損失等の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、減損損失等の計上及び最近の業績動向等を踏まえ、平成28年2月4日に公表した平成28年3月期の通期連結業績予想を下記の通り修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

当社は、原油価格の下落等に伴う上流資産の再評価を行っていたところ、生産中プロジェクトを中心とした一部の上流資産における減損損失等（*）の計上等により、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回予想比260億円減益の260億円となる見通しです。

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成 28 年 2 月 4 日発表)	百万円 997,000	百万円 364,000	百万円 375,000	百万円 52,000	円 銭 35.61
今回修正予想(B)	1,011,000	389,000	379,000	26,000	17.80
増減額(B-A)	14,000	25,000	4,000	△26,000	
増減率(%)	1.4	6.9	1.1	△50.0	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	1,171,226	534,886	575,155	77,820	53.29

なお、平成 28 年 3 月期の期末配当金の予想については、前回予想を変更せず、1 株当たり 9 円を維持します（1 株当たりの年間配当金は 18 円）。

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

< (*) 上流資産の減損損失等について >

(1) 主な対象資産

当社連結子会社である Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.が保有する「米国メキシコ湾キースリー・キャニオン 874 鉱区、875 鉱区、918 鉱区、919 鉱区内に跨るルシウス油田」（以下、ルシウス油田）に係る事業用資産について、原油価格の下落等に基づく事業環境の悪化を踏まえ、事業用資産の減損テストを実施した結果、事業用資産の回収可能価額が帳簿価額を下回ることとなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を損失として約 255 億円計上することとしました。

また、別途、当社の持分法適用関連会社である Angola Block 14 B.V.が保有する「アンゴラ共和国ブロック 14」に係る事業用資産、当社連結子会社である INPEX Gas British Columbia Ltd.が保有する「カナダシェールガスプロジェクト」に係る事業用資産、及び当社連結子会社であるインペックスチモールシー株式会社が保有する「チモール海共同石油開発地域 JPDA 06-105 鉱区」（以下、JPDA06-105 鉱区）に係る事業用資産についても、原油価格の下落等に基づく事業環境の悪化を踏まえ、一過性の損失を計上する見込みです。

(2) 親会社株主に帰属する当期純利益への影響額

(単位：億円)

対象プロジェクト	親会社株主に帰属する当期純利益への影響額
ルシウス油田	約△255
アンゴラ共和国ブロック 14	約△190
カナダシェールガスプロジェクト	約△80
JPDA06-105 鉱区	約△75
その他生産中プロジェクトを中心とした上流資産	約△70
合計	約△670(*)
前回（平成 28 年 2 月 4 日）発表の親会社株主に帰属する当期純利益の予想数値（520 億円）への影響額	約△370

(*)当該影響額のうち、△300 億円分を平成 28 年 2 月 4 日公表の平成 28 年 3 月期の通期連結業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益に織り込み済み。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、石油・天然ガス価格、生産・販売計画、プロジェクト開発スケジュール、政府規制、財務・税制条件等の変化により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上